



ぼくらは「うさぎ年」生まれ
うさぎさんと一緒に

今年も頑張ります

(本山小学校・うさぎ年生まれの子供たち)

今月号の目次

- ・みんなで健康、明るく笑顔で
すこせするように……………2~3
- ・1年の計は元旦にあり……………4
- ・成人おめでとう……………5
(コロニー白岩の里で成人式)

- ・町史編さんシリーズほか……………6
- ・納税者の皆さんへ……………7
- ・2月の検診、注射などのお知らせほか……………8
- ・年金日よりほか……………9
- ・おめでた、おくやみほか……………10

人のうごき(1月1日現在)

人口()内は前月比	出生	13
男 6,428(+5)	転入	26
女 6,959(+4)	死亡	13
計 13,387(+9)	転出	17
世帯 3,157(±0)	婚姻	5

善意に感謝

これらのご厚意は、地域福祉推進等のため、有効適切に使わせていただきます。大変ありがとうございます。明ヶ谷の矢部テルさんより、夫(前町議会議員 矢部秀雄氏)の生前中のご厚情に対する感謝と葬儀のお礼の気持ちをこめて、恵まれない方々と五万円の寄付
寺泊ライオンズクラブより二、七四三円の寄付
これはサンタになって郷本保育所を訪れた時、園児22名より日ごろのおこづかい貯金箱にたまったお金で、恵まれない人にと託されたものです。
高内の本田加代子さん、隆之くんから、昨年にひきつづいてこの一年間、買物のおつり貯金箱にたまった三、四〇二円の寄付

「社会福祉事業に役立てて下さい」と次の方々から善意の寄付が寄せられました。



「歳末たすけあい募金」
「みんなそろって明るいお正月」をテーマに、歳末たすけあい募金運動を12月1日から1ヵ月間実施いたしました。
皆様のご理解とご協力により、目標額(百三十万円)を達成することができ、総額百五十八万八千三百八十九円のあたたかい愛の募金が集まりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。
募金をいただいた内訳は次のとおりです。
一般戸別募金一、二二五、三二四円
学校関係募金 一八、〇六五円
老人ホームから 五〇、〇〇〇円
事業所からの募金 二九五、〇〇〇円

おめでた、おくやみ

(61.12.15~62.1.14 窓口届出・敬称略)

- 募金をい
ただいた事
業所(アイ
ウエオ順)
- (伊)藤組
- (藤)近藤建設
- (伊)菅沼組
- (寺)泊産業(株)
- (寺)泊自動車
- (株)中元組
- (星)工務店
- (株)マルス電
- (子)柳下蒲鉾
- (柳)下蒲鉾
- (矢)部建設(株)
- (和)田工業(株)

サンタのおじさん ありがとう



サンタクロースになった寺泊ライオンズクラブの皆さんが、今年も町内九カ所のすべての保育所を訪れ、園児一人ひとりに、ラクガキ帳や折紙などのクリスマスプレゼントをさしました。

東京寺泊会の
通常総会及び
新年会の
ご案内
東京寺泊会の通常総会及び新年会が開催されますのでご案内します。
とき 昭和62年2月15日
ところ 東京都港区芝公園
一〇五〇
(株)芝パークホテル
TEL(三)(四)(三)(四)一四一



白山媛神社で 合同除厄祭

真剣な表情で祈願する厄年の人たち

昔から男40歳前半、女30歳前半は災厄にあうとして伝えられ、特に男かぞえ42歳、女かぞえ33歳は受難の年(本厄)と言われ、神社で魔除けのお祓いをするのが習わしとなっています。
当町でも、ずっと以前から寺泊中学校卒業者を中心に厄年の男たちが、そろって除厄を行っています。今年も1月15日の小正月に白山媛神社で希望された前厄(41歳・36名)本厄(42歳35名)後厄(43歳28名)計99名の男たちが真剣な表情で厄をおとされました。

自分たちの生命・財産は 自分たちで守ります

寒風の中、整然と出初式

町の安全と無火災を祈りながら恒例の町消防出初式が、1月6日午前10時から寺泊港東埠頭で寒風をういて行われました。
式は、団旗の入場にはじまり、総指揮者の参加人員報告のあと中島町長が消防団、署員を観閲

し、つづいて「町民が安全で快適な生活ができる防人として一層がんばってほしい……」と訓示されました。
消防関係者一同、一四、〇〇〇町民の生命、身体、財産の保護と防火防災のため、決意を新たに取り組んでいました。



消防団員、署員を観閲する中島町長

地域に根ざした 消防団の活躍

「原動力」は
郷土愛

消防団は、ふだんはそれぞれ自分の仕事をもちながら、非常の場合は消防団員として、我が家、我が身がまわらず出動しなければなりません。
これは、他ならぬ郷土愛の精神が本業を投げうってまで献身的な活動をする「原動力」となっているのです。

災害といっても、火災から地震、豪雨、台風といろいろあるため地域社会で消防団が果たす役割は大変重要なものとなっています。
これからも「緑の下の力持ち」として活躍する消防団にできる限りのご協力をお願いします。

みんなで健康、明るく笑顔で、すごせるように

…家内安全・無病息災・町の安全と無火災を各地で祈り…

各地で「賽の神」 行事行われる



今年はじめて行われた小川町の賽の神

最近、各地で小正月の行事である「賽の神」が行われています。
この賽の神の行事は、疫病神や悪霊を防ぎ、無病息災を祈るとともに、「書いた習字を燃やすと字が上手になる」「この火で焼いたスルメを食

べると丈夫になる」、とか言われるため、子供たちは焼いたり食べたり大はしゃぎで楽しんでいました。
15日、町内ではおよそ20箇所で行事が行われ、小川町内会でも、今年はじめに行われましたが、午後一時の点火にあわせ、次々と近所の人がつめかけ、無病息災、町内円満のため、これからも毎年やりたいね」と祈願されていました。

一年の計は元日にあり

雪のない元旦かけあし大会で 足・腰を鍛える

久方振りに雪のない元旦の朝を迎え、そう快な気分での一年の大計をと、九回目を迎えた恒例の「元

旦かけあし大会」が行われました。体育館前に設けられた祭壇で、参加者一同無病息災のお祓いを受け、



大きく背のびをして1987年へジャンプ

中島町長の新年のあいさつ後、号砲一発、一斉にスタートしました。コースは三・五キロ、二キロに分かれており、自分の体力に合わせて思い思いのコースに挑戦、子どもに引かれるように走るお父さんの姿や、途中で知人に会い年賀を交わす光景もあり、なごやかなうちに全員が完走し、大人は御神酒で、子どもはミカンを手にしてお互いの健康を喜びあいながら力強く新年をスタートしました。

オメン・ドー・・・ 寒さ吹きとばし、新春柔剣道大会

正月の二日、寺泊中学校を会場に第七回新春柔剣道紅白大会が盛大に開催されました。

今年、雪のないおだやかな稽古始めの日となり集まった百余名の元気な子供達は、体育館が割れんばかりの気合を入れ日頃の練習の成果を発揮して熱の入った試合を展開しました。

応援にかけつけたお父さん、お母さんはわが子の奮戦に盛んな声援を送っていました。



気合をこめ元気に稽古始める子供たち

優勝者は次のとおりです。

柔道

- 小学生低学年の部 山田恭嗣
- 小学生高学年の部 渡辺 透
- 中学生男子の部 広瀬 望
- 中学生女子の部 望

剣道

- 小学生低学年の部 成田秀樹
- 小学生高学年の部 成田剛敏
- 中学生男子の部 小黒寛史
- 中学生女子の部 内田吉光
- 女子の部 大塚千春

成人おめでとう

「きょうから大人の仲間入り はずかしくないよう頑張ります」

—コロニーにいがた白岩の里で成人式—



成人者を代表して「誓いの言葉」を述べる小嶋義孝くん

昭和46年に開設された「コロニーにいがた白岩の里」で、20歳になった入所生18人の成人式が、保護者をはじめ在所生ら大勢の人のお祝いをうけながら、1月14日午前10時から同所体育館で挙行されました。

また、在所生を代表して授産二課の稲田アキ子さんから「これからは、自覚と責任をもって立派な社会人になってください」との言葉をうけて、成人者代表、授産三課の小嶋義孝くんが「きょうから大人の仲間入り、成人としてはずかしくないよう頑張ります」と力強く、たのしい「誓いの言葉」を述べられました。

23日前からの雪で、コロニーにいがた白岩の里も白く雪化粧をしましたが、式典の最中、まさにこの成人式を祝うかのように太陽が照りさす中、コロニーにいがた白岩の里の歌「あしたへ」が白岩の里に元氣よくびびわたっていました。18人の皆さん、いつも明るく元氣であしたへ大きくはばたいください。

コロニーにいがた白岩の里の歌

「あしたへ」

一、うみのむこうは さどがしま
かがやくなみが よんでいる
ここはにいがた
しろいわのさと
あかるいひかりのそのなかで
あなたも わたしも
てをとりあつて
おおきなおおきな
わをつくらう
そしてあしたへ
あしたへはばたこう

町からも記念品が贈られました

祝昭和62年成人おめでとう

納税者のみなさんへ

お知らせ

平素から個人住民税の申告と納税について多大なご協力をいただき厚くお礼申し上げます。さて、本年も申告の時期が近づいてきましたので、期間内に申告くださるようお知らせします。

申告期限は3月16日まで

○所得税の確定申告を提出した人は住民税及び事業税の申告は必要ありません。

○所得税の確定申告を提出しない人で住民税の申告の義務のある人は、住民税の申告をしなければなりません。

○申告においでの方はおたがいに待ち時間節約のため申告書に自分で記入できるところは記入して下さい。

◎昭和61年分所得税納税相談日及び昭和62年度分住民税の申告相談日を左の表のとおり設けましたのでご協力をお願いします。

1. 営庶業（白色）の申告は、税務署から直接2月26日、27日のいずれかの日に相談日が指定されます。また、譲渡所得（贈与税も含む）の該当者についても税務署より申告相談日が指定されます。
2. 税理士による無料相談が3月5日、6日に商工会で行われますのでご利用下さい。
3. 不明なところがありましたら税務課へおたずね下さい。

税のコーナー 2月は固定資産税第四期の納期です。お忘れなく！

所得税の確定申告は正しく、早く、納税は振替で

確定申告書を出す時、次の点に注意してください。

- 1 貸家、貸ガレージ、貸宅地などから得る所得は、不動産所得となりますので申告漏れのないようご注意ください。
- 2 国民年金・厚生年金等は給与所得になりますので申告漏れのないようご注意ください。
- 3 豪雪による家屋の倒壊防止の屋根の雪おろし費用などの合計額が5万円又は、所得の合計額の10%のいずれか低い金額を超える部分が多額控除の対象となります。
- 4 支払った医療費の合計額が5万円又は、所得の合計額の5%のいずれか低い金額を超える部分が医療費控除の対象になります。
- 5 配当控除は通常は10%ですが、課税総所得金額が1千万円を超える場合は、特別の計算になります。

※所得税法の改正により記帳・記録保存制度並びに収支内訳書など新しい制度が設けられました。この改正により白色申告者であっても確定申告書を提出される場合、収支内訳書を添付することが必要となります。この機会に青色申告されることをお勧めします。

（お問い合わせは税務署へ）

会場	月 日	対 象 地 域	
		午 前	午 後
役 場	2月18日(木)	金山 ～上田町4	荒町 ～新川口
	2月19日(木)	大郷志 和戸	山松明 ヶ
	2月20日(金)	田 頭	夏 戸
	2月23日(月)	年引戸 友岡崎	法 吉 大円 上
	2月24日(火)	箕京本 ヶ 才	川下中蛇 曾 新
	2月25日(水)	チガヤ ～中浜	内川 ～大野積
農 業 研 修 所	3月2日(月)	竹 森	敦ヶ曾根
	3月3日(火)	新小豆 曾 長根口	下 桐
	3月4日(水)	碓木 田島	五 分 一
	3月5日(木)	高求下 中 内草条	田万北 善曾
	3月6日(金)	岩町 軽 方井	矢入 軽 田井

みんなの力で「県立寺泊高等学校」を大きく育てよう

新生 寺泊高校

最初の卒業生進路順調

昭和61年度 寺泊高校卒業予定者の進路概況

(昭和62年1月10日現在：卒業予定者総数75名)

就 職	進 学	
	専 門 学 校 等	大 学 ・ 短 大 等
計	9人	4人
製造業関係	13人	
事務、販売関係	9人	
理美容、調理、看護婦等	7人	
建設業関係	3人	
自衛隊、その他(一部未定者を含む)	13人	
計	62人	

「みんなの力で寺泊高校を大きく育てよう」と、全町の理解協力を得て十二月十三日に寺泊高等学校後援会が発足し、会長に中島町長を満場一致で選任し、地元高校の育成に一段と力が加わることになりました。

この春学校を巣立つ三年生も希望に胸をふくらませており、進路については、就職組のほとんどが決定し、進学組も明るい見通しとのことで喜ばしい状況です。

大学入試に合格した平塚淳君は「先生から合格の知らせを聞かされても、最初は信じられませんでした。その内に段々と喜びがこみあげてきました。これからも一生懸命に勉強して、後輩たちのためにも頑張りたいと思います」と語っており、また、就職の決まった女子生徒も「独立高校となり寺泊生として胸をはって社会へ出て行けるのでうれいです」と生き生きと話しています。

社会状況のきびしい中で三年生の進路状況はことのほか順調で、これは学校のきめこまかい進路指導が効を奏しているものと思われる。

町史編さんシリーズ(22)

新寺泊駅は昔の名前も寺泊

—わが町の海陸交通機関の変遷—

寺泊は中世以降海上交通の要港として、佐渡との往来、北前船の出入りで大いに賑わった歴史は伝えている。信濃川を上下する川船によって、大量の米穀が大川津の河港を経て寺泊港に運ばれたことは「千駄越」の地名や「日に千俵の米の積出し」の記録に、往時の繁盛ぶりを窺うことができる。

しかし、明治中期になると、海陸交通機関の画期的な変遷に伴い寺泊は港湾施設の遅れや鉄道設置の遅れにより退潮過程をたどることになる。そのために、他の関係機関との連繋の中で、時代即応の起死回生策が講じられるのである。

明治二八年、新潟と佐渡の航路が冬季航海困難により、十一月から翌年三月まで、寺泊と赤泊間の航路に占魁丸が就航する。「非常ノ暴風ナキ限りハ一日モ間断ナク航海」のこの航路は、本間健四郎県議による寺泊築港工事を促し明治四十年から六十年継続事業として着工され、やがて越佐商船会社の設立を呼んで「百噸級の木造船に代って二百噸級の鉄船による四季運航の航路」が計画された。

一方陸上交通にあつては、明治二十年に寺泊と大津間の新道が開通して大八車が往来し、大正二年四月、白山と柏崎間の越後鉄道全線が開通して、竹森地内に寺泊停車場が設置された。同じころ長岡鉄道株式会社が米迎寺―長岡―寺泊の鉄道敷設に乗り出し、大正四年十月に寺泊と与板間が開通、寺泊と与板の新駅設置に伴い、越後鉄道の寺泊、与板両停車場は大津、小島谷と改称された。

三島郡を縦断する長岡鉄道は、翌年一月全線開通に至るが、越後鉄道、魚沼鉄道に次ぐ県下三番目の私鉄として三者を結ぶと共に、佐渡航路の進展と寺泊の観光開発も大きなねらいであったといわれる。大正五年一月には寺泊地内の国有地払下げ、海岸埋立を申請し、海岸沿いに線路を延長して、佐渡への旅客と貨物の輸送を拡大する構想が立てられた。一方、遊園地浴場経営が検討され、大正十五年四月には試掘石油井の撰氏三〇度の大量の湯と、噴出する天然ガスを利用して「寺泊温泉共楽園」が開設され、観光地として寺泊は活気を呈したと記録は伝えている。

昭和に入り、二十年十月越後鉄道



が国鉄移管になる中で、長岡鉄道は翌年三月、寺泊座において関係者多数による決議大会を開催した。しかし「長岡鉄道と寺泊を救うには長鉄を国有にする以外はない」と絶叫する大平町長の悲願も空しく、第五六回帝国議会で廃案となり、長鉄は後年廃線の憂き目を見たことになる。

昭和四年六月、中越自動車により寺泊と三条間の路線バスが運行され、六年九月には上越線開通記念博覧会が寺泊水族館開館に併せて盛大に開催されたが、両泊航路四季運航の積荷を残したまま、戦時態勢に突入するのである。

